国立公園の中の植物園
―自然林の中の楽しみ方

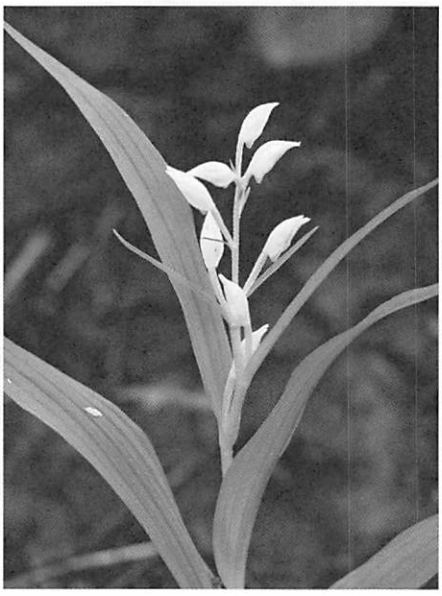
磯貝 高士
（弟子屈町）

私は小さな宿泊業を国立公園内でしていますが、国立公園は国がその自然を守るものと思っていました。国立公園ではありますが、周りはほとんど私有地です。私の住む阿寒国立公園内の屈斜路湖畔は大手企業のホテルを除いては自然そのものでした。最近また湖畔に大規模な農業施設ができることになりました。湖畔のキャンプ場（私有地）だった所を整地して温泉を利用したハウスをいくつか作り、東京ディズニーランドにその生産物（イチゴ）を供給するそうです。周辺は木々が茂っています。成長して日陰にでもなってきたらどうするのでしょう。公園外に適地はあるのに、国はどうして許可したのかわかりません。保護、保護と云いながら自然環境もあったもんでないです。しかも地元自治体も喜んでいるようです。自然が財産、それを生かした観光を、と云いながら？？？

自然林に囲まれた我が家は植物園の中にあるような喜びがあります。四季がハッキリわかります。東京に住んでいたときは鉄道やバスなどを使ってわざわざ見に行ったものですが、今は周りですぐに見られますし、また散歩がてらに四季を楽しむことができます。

春は雪解けとともに草花を一番多く見ることができます。ここは温泉のせいで地熱が高いのでホルスタイン模様（雪で白いところと雪の消えた地肌のところ）で始まります。まず、はじめにフクジュソウ（写真）があちこちに咲きます。まだ下

フクジュソウ



ササバギンラン

草がめだたないのでとくに目につきます。そしてフキノトウ、エゾエンゴサク、ミズバショウ、ヒトリシズカ、ニリンソウ、フデリンドウ、少し間をおいてフタリシズカ、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、クルマバソウ、マイヅルソウ、ルイヨウボタン、コンロンソウ、ツマトリソウ、イチヤクソウ、ギョウジャニンニク、ギンリョウソウ、ベニバナイチヤクソウ、キツリフネ、クルマユリ、オオウバユリ、ヌスビトハギと続きます。ラン科の花を見つけるのも楽しみの一つです。ササバギンラン(写真)、サイハイラン、コケイラン、ホソバノギラン、オニノヤガラ、エゾスズランなどのラン科を見つけた時はとくにうれしくなります。ラン科は毎年同じところで見られるとは限りません。ベニバナイチヤクソウを見つけた時もうれしかったです。

秋になると、今度はキノコです。まずはタモギダケでしょう。鹿が楡の樹皮を好んで食べるので当然枯れますが、その枯れ木に数年後タモギダケが出てきます。とてもたくさんに。他にはスギタケ、ハナビラタケ、ヤマブシタケ、ボリボリ（ナラタケ)、マイタケ、みんな美味しくいただいていますが、キノコはわかりにくいので目だけで楽しませてもらうことが多いです。

最後に樹木について少し触れたいと思います。先に述べたとように、周辺一帯は、地熱が高いことと岩盤であることのせいで、太い根、主根が深く入らないので強く風が吹くと倒れやすいです。昨年8月北海道を直撃した台風7号の時には、幹回りが40〜50 cmもある大きな木が芝生をはいたような根むくれで倒れました。樹齢数十年ほどの樹が倒れると残念でなりません。

機会がありましたら、今度は野鳥を中心にお知らせしたいと思います。

エゾエンゴサク
地錦抄附録
伊藤伊兵衛 1733

カタクリ
本草綱目啓蒙図譜
井口望之 1850